

WedsSport

YOKOHAMA

SHINKO

OGURA
CLUTCH

MIE TOYOPET

NUTEC

Jms

OKAWA
ExpPress

DIESEL AID

FUJITSUBO
EXHAUST SYSTEMS

BRIDE

宮田自動車商会



WellVets
- Animal Welfare Group -

KBC
DENTAL CLINIC

GLOBAL
GURTTZ CRYSTAL

本田鉄工株式会社

Quawat fire
タイヤ・メンテナンス

RACING PROJECT
BANDOH

3 戦連続 P.P.獲得

『ポールポジションからのスタートもトラブルやミスで勝利を失う。』



シリーズ名 : 2022 AUTOBACS SUPER GT シリーズ

大会名 : 2022 AUTOBACS SUPER GT Round4 FUJIMAKI GROUP FUJI GT
100Lap RACE

SUPER GT Round.4 FUJI 決勝結果【9位】

レース距離 : 1周 4.563km×100周 (456.3km)

8月6日(土) 天候 : 曇り / 路面 : ドライ

8月7日(日) 天候 : 曇り晴れ / 路面 : ドライ

8月6日(土) 予選 Q1 : 国本選手 3位 / Q2 : 阪口選手 1位 /
公式予選 : GT500 クラス 1位

2ヶ月ぶりに帰ってきた SUPER GT。

19号車は今年の第2戦富士スピードウェイでポールポジションを獲得し、第3戦鈴鹿でもポールポジションを獲得。

SUPER GT500クラスでの3連続ポールポジションというタイ記録が掛かっているだけに、気合いが入る。



土曜日の天候はここ最近の猛暑とは違って、朝の富士は霧が立ちこめ、公式練習の前半はWet宣言が出されるほど、真夏の富士とは思えない状況となった。

公式練習は後半の占有走行時までには路面もドライに変わり、各車タイムを上げていく中、19号車は国本選手ドライブにて、トップの24号車に引き

続き1分27秒818のタイムを出して終了。ヨコハマタイヤユーザーが1-2と占めることとなった。午後も晴れることは無く、引き続きコースには富士特有の霧がうっすらと立ちこめるが、路面が濡れるほどでは無く、真夏に予想される気温/路面温度より低い(21度/28度)状況の中、予選が開始されることとなった。

Q1のアタックドライバーは国本選手。GT300クラスの車両回収にてスタート時間がデレイとなったが19号車はスタート直後に、ほとんどの車両と同じくコースインしていった。各車が残り2分から2回のアタックでタイムを出していく中、19号車は最後の1周に全てをかけ、残り30秒に一発のタイムアタックに入る。国本選手は、トップよりセクター1、セクター2でマイナスのタイムをだすものの、TOPまで一歩及ばず、暫定2位の1:27.169を出す。その後、各車タイムを上げて順位が入れ替わったが、19号車の結果は3位となり、Q1通過となった。

Q1の結果は、38-36-19-37-8-24-23-12-(以上Q1通過)-100-14-64-39-16-3-17となります。

Q2のドライバーは阪口選手。Q2開始直後に19号車が一番にコースイン。各車コースに入り、ウェービングしながら周回を重ねていく中、1分37秒台で周回していく。Q1と同様に残り3分で各車タイムを上げ、1回目のアタックにはいる中、19号車は残り1分で1:29.426を出した後、一発のアタックに入る。

そのアタックは、セクター2で0.4秒他車より速く、阪口選手自身がQ2後インタビューで完璧なラップと言い切ったタイムが、1:26.178となり、ポールポジションを獲得する事となった。

これで、19号車は第2戦から3連続のポールポジション獲得となり、ヨコハマタイヤとして3回連続ポールポジションの記録を樹立することとなった。

Q2の結果は19-24-37-38-8-36-12-23となります。

明日の決勝はトップからのスタートとなります。”3度目の正直”で表彰台のトップを目指して爆走してい





きます。

皆様の応援、宜しくお願いいたします。

予選コメント

【坂東監督】



『素晴らしいタイヤに感謝します。横浜ゴムさんと開発してきたタイヤでヨコハマ 1-2 という結果を出せて本当に良かったです。2 人のドライバーは素晴らしいです。エンジニアのアジャストや国本選手のアドバイスもあってタイヤの性能を 100% 出すことが出来ました。3 度目の正直。狙うは TOP のみです。』

【国本選手】



『3 戦連続ポールポジションでとても嬉しいです。想定より気温や路面温度が低い中、自分たちが開発したタイヤで 1 番を獲得出来ました。この 2 か月間頑張ってくれた横浜ゴムさん、チームスタッフ、エンジニア、TCD、TGR さんのお陰だと思っています。明日は長いレース、より良い戦略で横浜ゴムと共に戦っていきます。沢山の応援ありがとうございます。』

【阪口選手】



『想定より路面温度が低かったのですが国本選手が Q 1 突破してくれて、国本選手からアドバイスをもらい、良いアタックが出来ました。想定より路面温度が低かったので心配もしてましたが僕らが開発してきたタイヤの幅が広く、安心してアタックし、タイムを出すことが出来ました。3 度目の正直。ポールから優勝目指して頑張ります。』

WedsSport

YOKOHAMA

SHINKO

OGURA CLUTCH

MIE TOYOPET

NTED

Jms

OKANO Express

DIESEL AID

FUJITSUBO EXHAUST SYSTEMS

BRIDE

宮田自動車商会



WellNets - Animal Welfare Group -

KBC DENTAL CLINIC

GLOBAL SECURITY SYSTEMS

本田鉄工株式会社

JOYNET Fire

RACING PROJECT BANDOH

決勝 8月7日 GT500クラス 決勝結果 9位

真夏の富士は500マイル(800km)レースが恒例であったが、今回は450km、100周として、2回の給油義務が付けられたレースは、複雑で突飛な要因でいともたやすく代わり、チームのレース戦略がものを言う。

昨日は薄い霧が富士スピードウェイを覆う天候だったが、決勝当日も、朝は天候が回復基調にあったものの、決勝直前に降った雨が部分部分で路面を濡らした。スタート直前に青空も見え、路面も乾き始めるので、これが直接レースに影響するとは思えないが、450kmという長距離でのレースと相まって、混乱が予想されるサバイバルレースを制するのは何処のチームか。

スターティングドライバーは国本選手。富士では恒例の静岡県警の白バイとパトカーによる交通機動隊先導のパレードラップの後、路面状況により1周追加の2周のフォーメーションラップを経て、99周(1周減算)のレースがスタートを切った。

スタート直後には大きな順位変動は無く、19号車はトップで戻ってくる事が出来た。

しかし、後ろからは同じヨコハマタイヤを履いた24号車が迫り、3周目のメインストレートでアウトから刺されてトップを譲ることとなった。さらに、後ろから37号車が迫ってきて、5周目の1コーナーで37号車にパスされ3位に、後ろに迫った38号車はペナルティ消化のためにピットに入ったが、さらに、後ろから12号車が迫ってくるが、7周目の1コーナーでパスされ4位となると、ダンロップコーナー入り口で8号車に、8周目にメインストレートで23号車にパスされ、6位に落ちてしまう。

9周目あたりから、300クラスに追いつき、コースが混雑した状態で、後ろの14号車と36号車との6位争いが勃発する事となるが、19号車は5位との差が少しずつ広がるものの、6位を死守する形で周回を重ね、24周目ではトップから22秒差の6位のまま。

が、28周目の1コーナー出口で後ろの14、36号車にパスされて8位に順位を落としてしまった。

33周目には、後ろの100号車が迫ってきての8番手争いが起こるが、レース周回数が1/3となり、各車が1回目のピットインを行う中、19号車は34周目に1回目のピットイン。ドライバーは阪口



WedsSport

YOKOHAMA

SHINKO

OGURA CLUTCH

MIE TOYOPET

NUTEC

Jms

OKANO Express

DIESEL AID

FUJITSUBO EXHAUST SYSTEMS

BRIDE

宮田自動車商会



WellNets - Animal Welfare Group -

KDC DENTAL CLINIC

GLOBAL GIBBETZ CRYSTAL

本田鉄工株式会社

Quaray fire タイヤレスバルブ

RACING PROJECT BANDOH

選手に交代したが、ピットミスもあり暫定 12 位でコース復帰。

全車 1 回目のピットを終えた後の 44 周目での 19 号車の順位は 9 位。後ろからは 100 号車に迫られるが、引き離し、前の車を懸命に追いかけていく。前を走っていた 17 号車が 59 周目に二度目のピットに入ったため、19 号車は 8 番手に上がる。60 周目に 300 クラスがコース上で止まった為、FCY が入った。61 周目に FCY が解除され、19 号車の順位は 8 番手のまま。71 周目の 19 号車の順位は 8 位のまま、トップからは 42.684 秒差となる。

各車、71 周目から 2 度目のピット作業に入る中、19 号車は 77 周目に 2 度目のピットインに入り、給油、タイヤ交換のみでドライバー交代無しで出たが、ピット作業に手間取り、暫定 10 位での復帰となった。

83 周目に全車 2 回目のピットインが終了し、19 号車の順位は 12 位。前の 17 号車に迫る走りとなっている。

86 周目には、10 位の 16 号車と共に 10 番手争いが激化するが、87 周目に 16 号車をパスして 11 位、さらに 89 周目のメインストレートで 17 号車をパスして 10 位に上がる。

残り 9 周で前の 64 号車とは約 4 秒。阪口選手はさらに追撃を開始し、残り 7 周でその差を 1 秒未満とし、残り 5 周で 64 号車をパスし、9 番手に上がる。さらに追撃の手を緩めない阪口選手は 19 号車をゴールまで導き、9 番手でチェッカーを受けることとなりました。

レースは、ポールポジションの 19 号車を、24 号車が 3 周目にパスしてトップに躍り出ると、72 周目までトップを守り続けたが、74 周目に 2 度目のピットに入った実質 2 位の 37 号車がピットタイムを大幅に短縮して出たため、順位が入れ替わり、37 号車がトップに躍り出ると、2 位以下を引き離しチェッカー。以下 12-24-36-8-39-14-100-19-17-64-3-16-23-(以上完走)-38 となります。

予選では結果が出てますが、決勝では思い描いてる結果ではありません。

表彰台の頂点を獲得する為に今から改善しないといけない部分を改善して次戦の鈴鹿では、さらなる高みを目指し、爆走していきます。

皆様の応援、誠にありがとうございました。

SUPERGT

<https://supergt.net/pages>

BANDO H

<http://www.bandohracing.com/>



WedsSport

YOKOHAMA

SHINKO

OGURA CLUTCH

MIE TOYOPET

NUTECH

Jms

OKANO Express

DIESEL AID

FUJITSUBO EXHAUST SYSTEMS

BRIDE

宮田自動車商会

WellVets
— Animal Welfare Group —

KDC
DENTAL CLINIC

GLOBAL
MOTOR & CYCLE

本田鉄工株式会社

Quantum Fire
タイヤ・ブレーキ

RACING PROJECT
BANDOH

決勝コメント

【坂東監督】



『ヨコハマゴム様、GR様、スポンサー様、ファンの皆様申し訳ございません。2回のピットミスもあり、今回は良いところはありませんでした。しかし予選、決勝共にタイヤの進化は感じられましたし、勝ったのは37号車で24号車は3位。横浜ゴムとGR SUPRAのパッケージであれば勝てたはずで。様々なミスがあり、9位でした。強いチームにするためにはまだまだ課題はあります。タイヤの進化を武器に前を向いて次に繋がりたいと思います。本当に申し訳ございませんでした。沢山のサポート並びに応援ありがとうございました。』

【国本選手】



『スタートステントを担当しました。』

スタート前に雨が降り所々ダンプ路面での中、上手くスタートをすることが出来ました。

その後はストレートスピードが悪く、ブロックしている間にタイヤの摩耗を早めてしまいペースを保つ事が出来なくなりました。

ファーストステントで遅れたギャップを最後まで埋めることが出来ずに9位でゴールしました。

良いレースが出来ずに悔しいレースとなりましたが、しっかりと向き合い次こそは強いレースを見せられるように準備していきます。』

【阪口選手】



『決勝は9位となりました。1ステント目の序盤から厳しいペースになってしまいました。僕が担当した2,3ステントも良いペースの時帯、悪いペースの時間帯とバラつきがあったのでそこを修正していきたいです。レース中色々トラブルが起きてしまい本来の順位より後ろでゴールしてしまったことは残念だと思いましたが、課題がはっきりしているので後半戦巻き返します。引き続き頑張ります！』